



基本理念

この病院で最も大切なのは患者さんです

The Most Important In This Hospital is the Patient.

安心して相談できる心と脳の専門医療を目指します

人権を尊重し、患者さんが安心して、納得する精神医療・ケアを提供する
説得力のある最新の医学的根拠に基づいた治療を目指す
政策医療を中心に高度の医療サービスを提供する
高度・先駆的な精神医療を模索し、研究・教育・研修に力を入れる
自然に囲まれた落ち着いたアメニティーを提供する
地域の医療機関と協力して心の健康作りをめざす

M E N T A L
Mental Care
EBM
National Policy
Teaching
Amenity
Local Network

Contents

新年のご挨拶	2
第68回西日本認知症研修の開催について	4
院外活動は約1年ぶり、待望のハイキングをしました！！	5
作品展示会	6
当院のイベント食の紹介～『ワクワク』する食事提供を目指して～	7
外来診療のご案内	8

発行所：〒861-1116 熊本県合志市福原208
独立行政法人国立病院機構 菊池病院
編集発行：広報誌編集委員会



ホームページ
QRコード

寅

新年のご挨拶

令和四年

院長 渡邊 健次郎



新しい年を迎えましたが、今年も新型コロナウイルスは、新たなオミクロン株が、全世界で猛威を振るっており、日本でも1月上旬から徐々に増加してきて、1月18日には熊本県では608名と過去最高の感染症者数を更新しました。今年も、新型コロナウイルスとの戦いは続いております。

去年は、当院でも精神障害の方で軽症までの新型コロナウイルスに罹患された患者様の受け入れを行いました。精神障害の方が身体疾患に罹患された場合、一般病院での治療が困難ですが、新型コロナウイルスについても、同様のことが起こります。

他県では、精神科病院で新型コロナウイルスに罹患された患者様が、転院できないといったことが起こりましたが、熊本県では、熊本県立こころの医療センターと当院で受け入れができましたのでそのようなことは起こりませんでした。

コロナ感染症は、災害とも言える状況ですが、今回当院が公的病院の役割として、これに対応できたことは、当院として今後の当院の果たす役割について考える機会になりました。

コロナ感染症のために、当院を公園化するという構想は進展しておりませんが、公園化構想を発展させて、当院では、平時は公園として、災害時には災害拠点精神科病院として機能できるように体制を整えたいと考えております。

まずは、新型コロナウイルス感染症が一刻も早く終息するように職員一同チームワークを発揮して全力を尽くしたいと考えております。本年も、菊池病院をよろしくお願ひ申し上げます。



「新年のご挨拶」

事務部長 伊藤 淳司



新年明けましておめでとうございます。年明けからオミクロン株が猛威を振るっていますが、今年一年、菊池病院にとっても職員の皆様にとっても実り多い年になりますことを祈念いたします。

さて、一般科においては、「地域包括ケアシステム」の地域医療構築が進められています。今後は、「精神科障がい者にも対応した地域包括ケアシステム」が進められます。加えてアフターコロナは医療環境が変化する

ことが予測されています。医療に変革が訪れています。菊池病院も国立病院機構本部が主導しています標準化された電子カルテ導入に参加したり、熊本県の精神科災害拠点病院としての役割を果たすべく申請を行ったりして変革を図ろうとしています。

しかし、もっと菊池病院が地域包括ケアシステムのなかで役割を果たすためには医療機能の向上が必要だと考えています。これには、各職場が協力してチームとして菊池病院が機能することが大切であると考えます。各職場が連携を図りチームとして機能していけば医療機能の向上も図れると考えます。

コロナ感染も終息が見えない中、求められることは多いですが、菊池病院職員の「団結力」が発揮できるように取り組みたいと考えています。

「新年のご挨拶」

看護部長 竹之内 須賀子



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

未だコロナ禍にある現在では、落ち着いた日々が続いています。しかし、2年前にこの新興感染症のパンデミックが始まり、難しい局面も何度となくありましたが試行錯誤しながらも、多くの方々にご協力を頂き乗り越えてくることができました。本当に心より感謝申し上げます。

この間、医療従事者の皆様には、行動の自粛等も厳重に行われ、多くのストレスも蓄積したことと想像しています。その中で当院では精神疾患・認知症・発達障がいのあるコロナ陽性患者の受け入れや職員の派遣も行いました。当初は、先の見えないこの戦いに疲弊の声があがり、職員との面談を行いました。誹謗中傷への悩みや家族を思う職員の気持ちも聴きました。また、中には「大丈夫です。良いチームで仕事できています」「この病院に勤務している私たちの使命です」

「家族も好きにやってこいと言ってくれました」と話す職員もいました。そして、その後も个人防护具を装着し患者さんに丁寧な対応をしている看護師の姿に医療従事者の矜持を見た気がします。

今や医療は多職種チームでないと遂行できません。しかし、コロナ禍となり対面でのコミュニケーションは減り、その人の発するなにげないニュアンスを感じ取ることを難しくし、関係の構築をやや弱めている状況にあると感じています。しかし、こんな時だからこそ、看護職には「心を見る専門職」として患者のみならず相手の思いに寄り添い、暖かな対応が求められます。そして、この変化する世の中で地域も含めての多職種で協働・連携し、その力を精一杯発揮していけたらと考えています。

現在、オミクロン株の急激な感染拡大により、当院もコロナ陽性患者受け入れ準備を進めています。またか、と思いたくもなりますが少しずつ現状は変化してきています。正しい情報を得て正しく怖がり、今しばらく、緊張感を持ってこの災害（新興感染症）を共に乗り越えていきたいと思えます。

本年もよろしくお願いいたします。

第 68 回西日本認知症研修の開催について

認知症看護認定看護師 坂本 真一郎

11月10日～11月12日の3日間、菊池病院主催で第68回西日本認知症研修がオンラインで行われ、大阪などの関西圏から沖縄まで、総数45名の参加がありました。研修では、認知症専門医の講義や管理栄養士、精神保健福祉士、認知症の人と家族の会の代表の方などから幅広い認知症の講義が行われました。私は、認知症看護の講義や事例検討会、意見交換会の担当を行いました。研修生のお話を聞く中で、認知症者への対応でそれぞれ苦労されていると感じました。認知症は同じ疾患でも症状の出現には個人差があり、生まれ育った環境でも症状が異なるからだと思います。なぜその症状が起きているのか「根拠」を知り、数多くの対応をすることで得る「経験値」が、

より良い認知症看護には必要だと思います。この西日本研修では、幅広い分野の講義と多くの府県からの参加で、様々な意見や対応方法を聞き、多くの知識を習得できたとアンケート結果からも感じて取れます。高齢化が進む日本では、認知症者は増加の一途を辿ります。認知症は、これまでできていたことができなくなりネガティブな印象を持ちますが、関わり方や上手な社会資源の利用でできることもあり、家族の結束が強くなるなどポジティブに捉えることもできます。認知症看護や介護の知識、対応方法がもっと普及し、認知症の方と家族が笑顔で過ごせる世の中になってほしいと思います。



院外活動は約1年ぶり、 待望のハイキングをしました！！

精神保健福祉士 牧 健二

当院では、精神科デイケアとして「精神症状の安定・改善」「社会復帰・就労支援」「身体・精神のリハビリテーション」など行っております。

新型コロナウイルス感染予防のためバスレクや院外活動を控えておりましたが、デイケア利用者のご希望が強く、新型コロナ感染状況も改善していたため、約1年ぶりに待望のハイキングを行いました！！

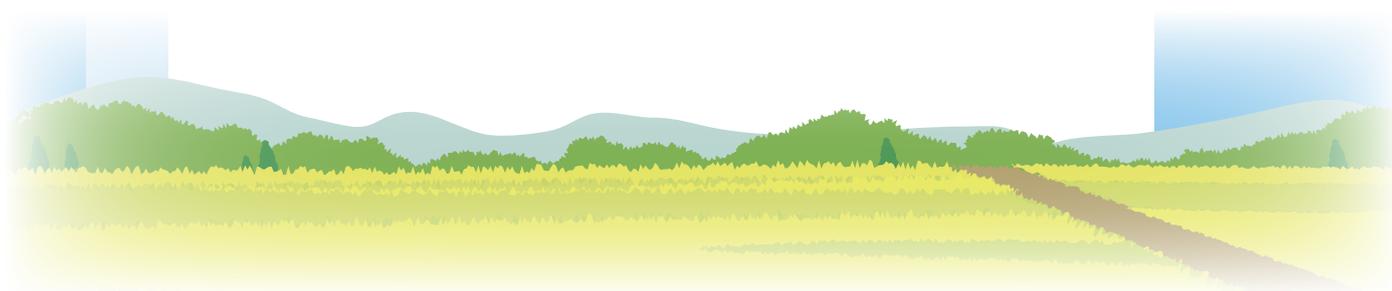
令和3年10月28日、デイケアから片道30分ほどの「セミコンテクノパーク中央公園」までウォーキングを実施。

久しぶりの外出活動ということもあり、道

中はデイケア利用者さん同士で楽しく会話をする場面も見られ、また、公園内ではソーシャルディスタンスをとり、お茶を飲みながら秋の景色も満喫しました。

今回は、一般の方との接触が避けられるウォーキングという内容でしたが、デイケア利用者からは「買い物ツアーに行きたい」「みかん狩りに行きたい」「外でみんなとお弁当を食べたい」などバスレクの希望もありました。

新型コロナ感染状況にもよりますが、工夫しながら今後も利用者に満足していただける活動を通して、楽しみながらリハビリテーション等を行っていきたいと考えております。



作品展示会



11/24～12/2に患者さん達が作った作品を集めて院内で作品展示会を開催しました。多くの方に参加して頂き大いに盛り上がりました♪

今後も楽しいイベントを沢山企画していくので参加よろしくお願ひします！

リハビリテーション科 佐々木朋子





当院のイベント食の紹介

栄養管理室 池田 かおり

～「ワクワク」する食事提供を目指して～



当院では、年間約30回の行事食や病棟食事会を行っております。コロナ禍で面会や外出、イベントなどの制限があるなかで、食事はより患者さまの楽しみになっていると実感しています。また、嚥下や咀嚼に問題を抱えている患者さまも多く、このような方にも楽

しみを届けられるように日々取り組んでいます。現在は次年度の作戦を練っているところですが、これからも他職種とも連携しながら、患者さまにとって『ワクワク』して楽しみとなるような心を込めた食事作りに努めて参ります。



「苺と抹茶のムースケーキ」

常食～嚥下調整食まで提供



「さつまいもプリン」

熊本震災後に毎年1月に実施している「いもの会」で提供



病棟バイキング

感染対策を行いながら実施。リクエストの『クリームパスタ』は病棟で仕上げて出来立てを提供



認知症病棟食事会

うな井：嚥下調整食も形成してバーナーで焼いて提供
おしるこ：お粥をもち風に仕上げ安全に



「クリスマスマフィン」

手作りデザートの日提供

外来診療のご案内 GUIDANCE OF OUTPATIENT CARE

(令和4年2月1日現在)

項目	月	火	水	木	金
新患	田中(亨)	坂西 (午前診療)	三浦 (午前診療)	渡邊 (第1.3.5)	渡邊
	西尾			加治屋	坂西 (午前診療)
もの忘れ 外来新患	(塩沢)	塩沢	塩沢	塩沢	
子供外来	田中(恭) (再来) (午後診療 ※ 第1以外)		田中(恭) (再来・新患) (午後診療)		田中(恭) (再来) (午前診療)
再来	塩沢	渡邊	渡邊	坂西	田中(亨)
	三浦 (午後診療)	加治屋	加治屋	西尾	塩沢
			三浦 (午後診療)	山口	落合
			高松 (第2・4)		

【専門外来】

- ◆ 老年期・・・担当医：塩沢
- ◆ 物忘れ外来・・・認知症予防と認知症に対する専門外来を行っております。
- ◆ MRI検査・・・当院にてMRI検査を受けることができます。

【受診方法】

- ◆ 診察については予約制となっております。
- 初診の方：地域医療連携室で予約を行っております。電話番号は096-248-2111
- 再診の方：診察後、次の診察日をご予約下さい。予約の無い方は外来に電話で予約して下さい。

【診察時間】

- 受付 8:30～15:00
- 診療 8:30～17:00
- 休診 土・日曜、祝祭日、振替休日、年末年始（12月29日～1月3日）



交通機関

- JR豊肥本線三里木駅下車
タクシー10分
- 熊本空港よりタクシー約20分


独立行政法人 国立病院機構 菊池病院
 〒861-1116 熊本県合志市福原208
 TEL 096-248-2111 FAX 096-248-4559
<https://kikuchi.hosp.go.jp/>